

水城跡(太宰府市)

左手から右手前方に延びる土塁とその前後の濠(現在は埋まってしまっている)が水城跡/664年、唐と新羅の攻撃に備えて全長1.2kmにわたり、築かれた大宰府の防衛施設跡/東側の国分丘陵にある水城跡展望台から西方向を見たところで、右方向が博多湾、左方向が太宰府跡



太宰府を博多湾から来る敵から防衛するために、水城・大野城・基肆城などが築かれた



博多湾から見た水城と古代官道(東門ルートと西門ルートがあった)/北西から見たところ

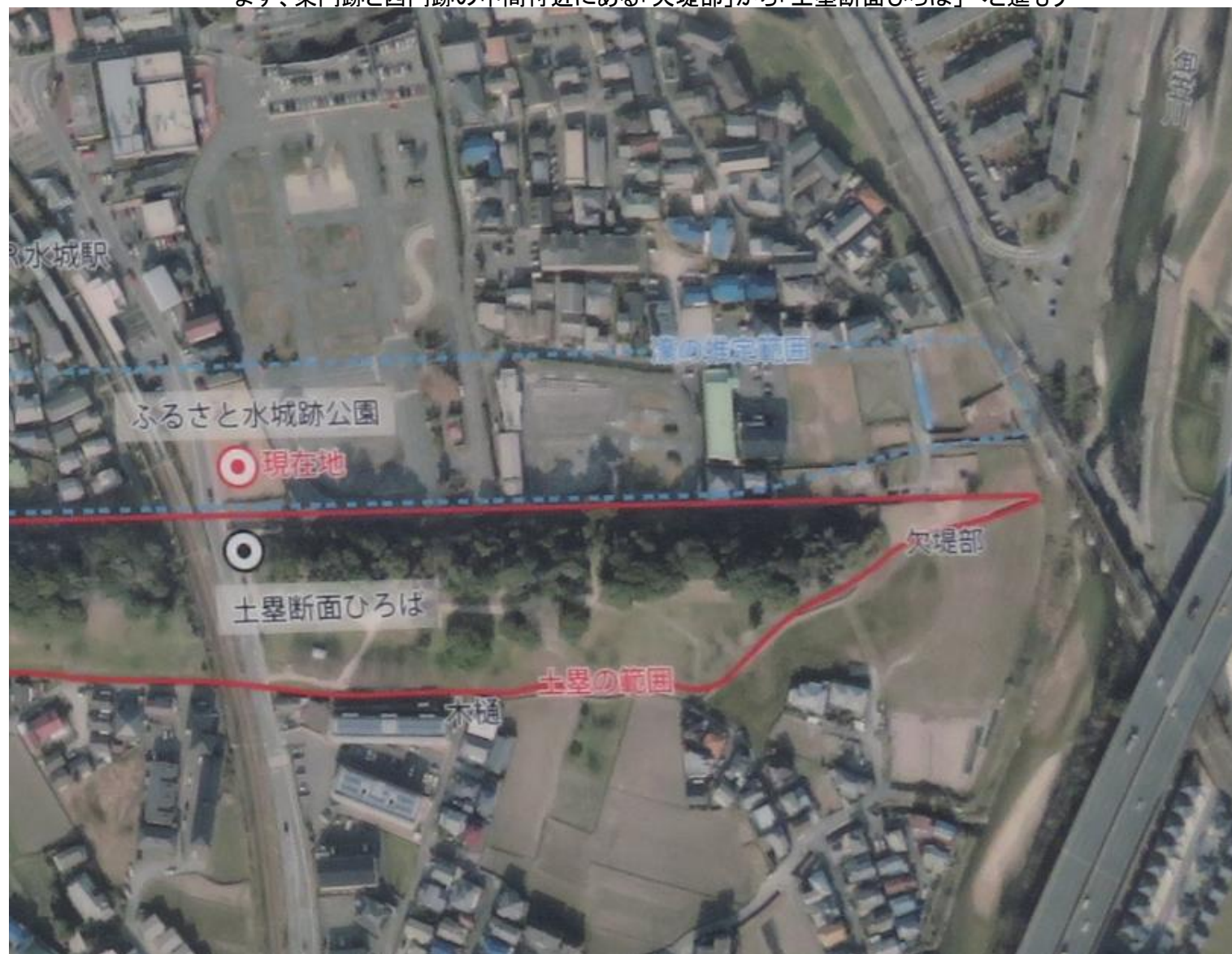


特別史跡 水城跡/太宰府市教育委員会(文化財課) より

上空から見た水城跡/最初の写真は右手の国分丘陵にある水城跡展望台から左手方向(西方向)を見たところで、右手に古代官道の東門跡、左手に西門跡がある



まず、東門跡と西門跡の間付近にある「欠堤部」から「土塁断面ひろば」へと進む



ここが「欠堤部」で、手前の東側部分は高速道路や鉄道により破壊されてしまっている/西方向を見たところ



土塁の左手の内濠跡を見たところ



同じく右手の外濠跡を見たところ/説明坂が立っている



特別史跡 水城跡

指定年月日

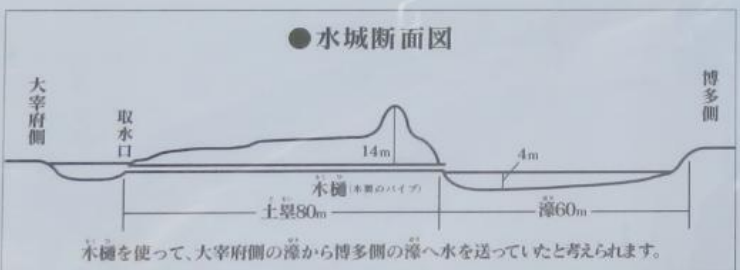
大正	十三年三月三十一日(史跡)
昭和	十三年十二月二十八日(追加)
昭和	二十八年三月三十一日(特史)
昭和	四十九年八月十日(追加)
昭和	五十三年三月七日(追加)
昭和	五十六年五月十五日(追加)

八世紀の始めに書かれた『日本書記』の中に「筑紫に大堤を築きて水を貯えしむ。名づけて水城という。」という記述があります。今、目の前にある大きな土塁が、この水城の跡です。

六六〇年、朝鮮半島にあった国『百濟』は、当時中国にあった国『唐』と同じ朝鮮半島の国『新羅』の連合軍に攻められ敗れました。そしてわが国に救援を求めてきました。わが国は百濟を助けるため兵を送りましたが、六六三年、白村江で大敗を喫してしまいました。この後、唐と新羅が海を渡って攻めてくるのではないか、という大変危険な事態が生じました。九州は朝鮮半島に近く、敵兵がまず上陸する場所。また国の役所である『大宰府』が置かれています。絶対にこれを守る必要があります、このために、六六四年に造られた防衛施設が水城なのです。

水城と同じ目的で造られた小さな土塁が大野城市を含めて六ヶ所確認されており、小水城と呼ばれています。

幸いにも唐と新羅は攻めてくることなく、水城がその役目を果たす機会はありませんでしたが、当時の緊迫した情勢や、土木工事に使役された人々の働く様子に思いをはせてみてはいかがでしょうか。



※水城跡の規模は東西に全長1.2kmです。

平成元年三月 福岡県大野城市教育委員会

そこで振り返って東方向の「欠堤部」を見たところ/前方の山は大野城が所在する四王寺山



さて、西方向にある「土塁断面ひろば」へと進もう



「土塁断面ひろば」まで進むと、その先の土塁は鉄道で分断されている/前方の木立に覆われた土塁は西門跡まで続いている



そこで振り返ると、ここが「土塁断面ひろば」/土塁の頂部に標柱が立っている



「史蹟 水城砦」と記されている



左手を見たところ/こちらが外濠側



右手を見たところ/こちらが内濠側



少し退いて「土塁断面ひろば」を見たところ





しきそだ
これは土墨の敷粗朶や版築を表していると云う



土塁の築造方法

-The construction method of earthworks-

水城の築造について

古代の人々は「敷相築」や「版築」などの様々な土木技術を採用してこの土塁を完成させました。その姿を現在にまで留めているという事実は、この当時の土木技術の水準がいかに高いものであったかを示しています。

ここでは、発掘調査の結果により推定された土塁の築造方法を示します。



土塁築造の様子を再現した模型

九州国立博物館 提供



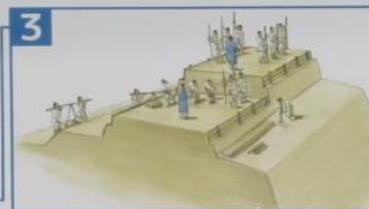
1. 基礎の構築(1)

地面を1~2m程度掘り下げながら土の軟らかさなど地中の状態を確認します。



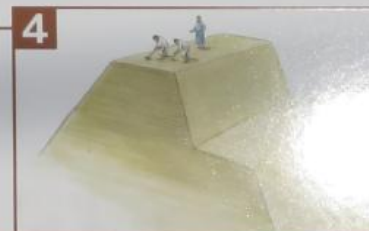
2. 基礎の構築(2)

およそ20cm前後の厚さを1層としながら粘土で埋め戻していきます。この際、基礎地盤の軟らかさに応じて幾層かの枝葉を挟み込んでいきます。



3. 土塁(上部)の築造

基礎の構築時に発生した土(「川の土」)を盛って1~2mかさ上げし、その上に1層の厚さ5~10cmの土を棒で突き固めながら丁寧に積み重ねていきます。



4. 土塁の完成

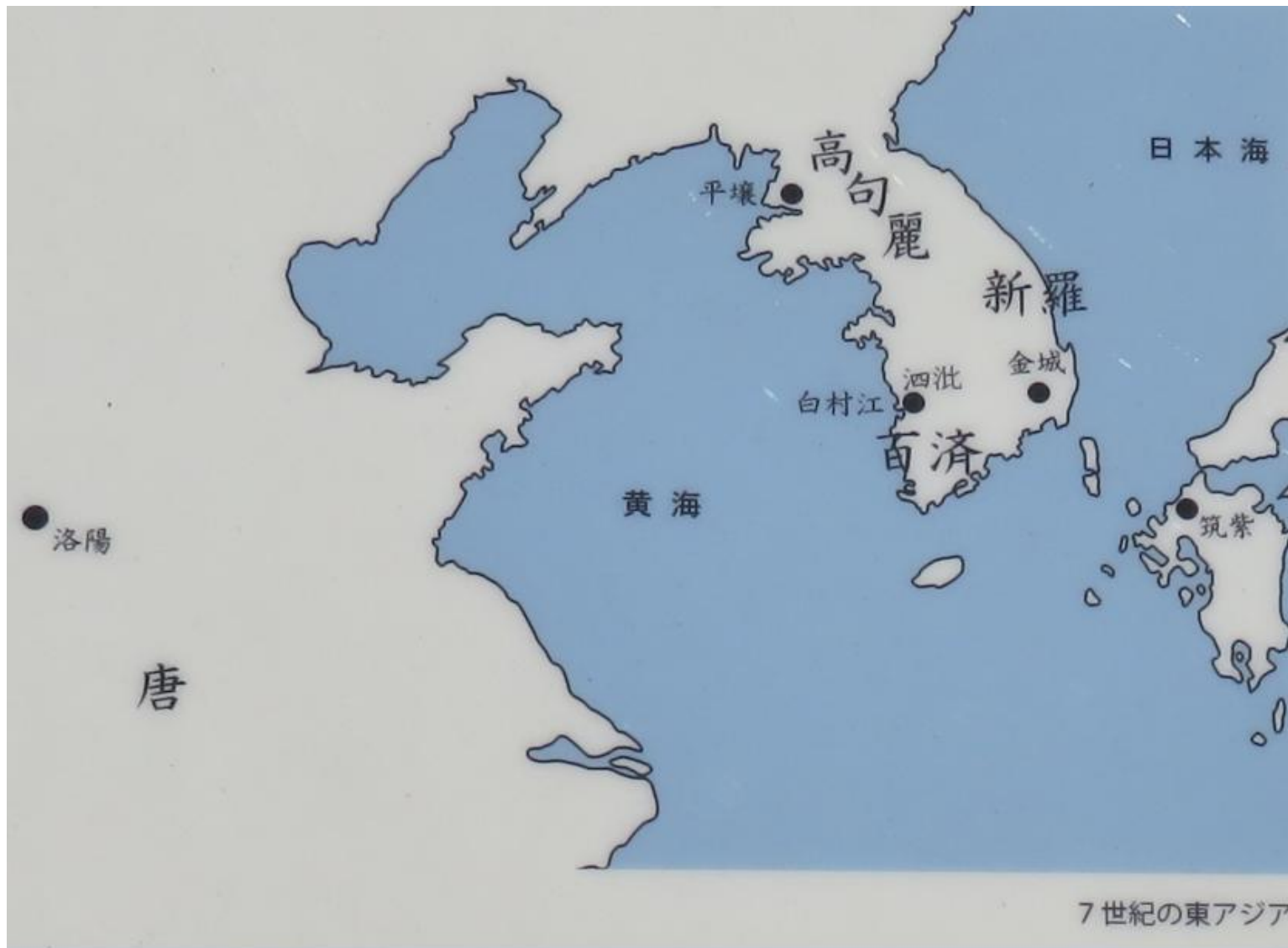
基礎から頂部までおよそ10m、幅およそ80mを測る長大で堅固な土塁が完成しました。

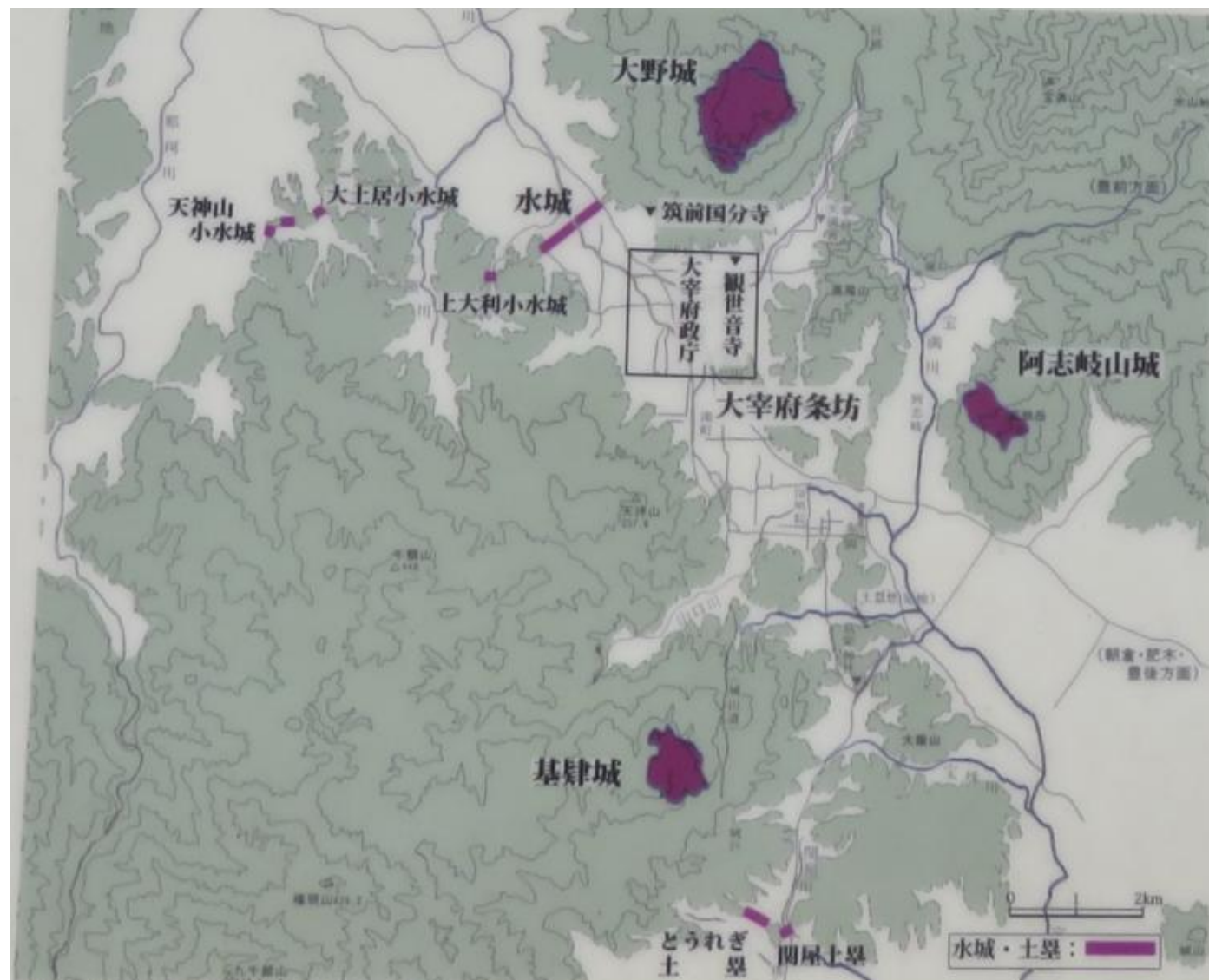
こちらにもさまざまな説明坂がある











水城・大野城・基肆城と大宰府（阿部義平 1991「日本列島における都城形成」『国立歴史民俗博物館研究報告』）



水城の門と官道（山村信榮 1993「大宰府周辺の古代官道」『九州考古学』第 68 集より）

前方の山は大野城が所在する四王寺山



四王寺山をアップで見たところ



さて、次は東門へ進もう/右手が国分丘陵で左手は「欠堤部」の高速道路など



ここが東門跡のある古代官道跡(東門ルート)/左手が国分丘陵



右手に土塁と外濠を見たところ/前方に「欠堤部」の高速道路が見える



左手に土塁と外濠を見たところ/一段低い手前の部分の土塁は模擬的に造ったもので「水城館」となっている



「水城大堤之碑」、「東門礎石」、「古代官道跡」、「水城館」、「万葉歌碑」、「木樋取水口跡」、「水城瓦窯跡」などがある





こちらは「水城大堤之碑」



水城大堤之碑

この碑は、大正4(1915)年、大正天皇即位の記念事業として、水城青年会が建てたものです。

碑文は、水城村在住の郷土史家・武谷水城が書き、碑の背面には、水城跡の由来と水城村出身の技師・竹森善太郎が行った水城跡の実測結果が刻まれています。台石は宝満山から、掉石は博多から水城青年会が自ら運搬したものです。

【碑文の訳】

「天智天皇3(664)年 筑紫に大堤を築き水を貯え名づけて水城という。

今をへだてること1252年。称徳天皇の天平神護元年3月、大宰少貳 従五位下 采女朝臣浄庭を修理水城専知官とす。今をへだてること1151年。

今、東堤長さ176間3尺(約320m)、西堤384間3尺(約700m)、総長561間(約1020m)、最高所5間5尺(10.6m)、基盤の最広所19間1尺7寸(約35m)、中央欠堤所96間(約175m)。西堤は近年中断し、二堤となる。

この所はすなわち東方関門の跡で片側の礎石が遺存している。その西方関門はすなわち吉松墜道の地なり。」

ここは東門跡





水城東門跡

みず き ひがし もん あと

水城の東西端には門が設けられました。ここはその東門跡で、都から大宰府への玄関口でした。

大宰府に赴任する官人たちは、水城の門で出迎えを受け、また送り出されました。実際、寛弘2(1005)年に大宰大貳として赴任した藤原高遠は、水城で大宰府の印と鍵を受けとり、また、天平2(730)年に大宰帥大伴旅人が帰京した時は、水城で役人たちに見送られています。

東門は、藤原高遠の和歌に「岩垣の水城の関」と詠われていることから、門の両側には石垣が築かれていたと考えられます。その後、寿永2(1183)年までは、門が存在したようですが(『平家物語』巻第8)、元寇のことを記した『八幡愚童訓』には、礎石があるのみと記され、13世紀後半には、門は無くなっていたことがわかります。その後もここは交通の要衝であったことから、大きく改変され、江戸時代には街道脇に礎石が1個残るのみとなっていました。

平成26(2014)年に一部発掘調査を行いました。攪乱されており、門の遺構は残っていませんでした。しかし、門外の脇に造られたと推測されるL字形に曲がる溝が確認されたことや土塁との位置関係などから、門は礎石があるこの付近にあったと推測されます。

Ruins of Mizuki's East Gate

This is where the east gate of Mizuki once stood. Currently, only the foundation stone remains, its size and structure are unknown. From ancient poems, it is believed that there were stone walls on both sides of the gate.

水城东门遗址

曾经的水城东门位于此处，现仅在底座基石。其规模以及构造不详。由古代诗歌的诗句可推断门的两侧曾有石垣。

미즈키(성) 동문 유적

이곳은(성) 미즈키의 동문이 있었던 곳입니다. 현재는 초석만이 남아있지만 그 규모나 구조는 알 수 없습니다. 고대에 만들어진 시의 내용으로 보아 문의 양쪽에 돌담이 있었던 것으로 추정하고 있습니다.



- ①は、発掘調査で見つかったL字形の溝の位置です。
- ②は、江戸時代から知られている礎石です。
- ③は、昭和43年、上水道工事で横の市道から発見された礎石で、円形の柱座が造り出されています。
- ④は、平成26年の調査で門跡周辺から見つかった石で、東門の石垣に使われた可能性も考えられます。



礎石と門の構造復元図

礎石上面にある2つの円形の穴は、門柱を据える穴と門扉の軸受けです。方形の穴は扉と門柱との隙間をふさぐ方立を据えます。

発掘調査で、礎石は江戸時代末頃の層の上ののっていることがわかり、官道の位置に対し、礎石の向きも異なっていたことなどから、古代の位置を保っていないことがわかりました。そこで、平成28年の整備では、礎石の向きだけ本来の向きに据え直されました。



江戸時代後期頃の東門礎石
(『筑前名所図会』巻四 福岡市博物館所蔵)

江戸時代から『筑前国続風土記』などの地誌にこの礎石のことが記され、『筑前名所図会』には挿図と共に「東の方大路の傍に、門の礎一つ残れり、是を俗に鬼の礎石といふ」と記されています。

This is a picture of the east gate foundation stone, drawn 150 years ago. It was called "Demon's Ink Stone" at that time.

150年前の絵画中所描繪的东门基石，在当时被称为「鬼礎石」。

150년 전에 그려진 동문의 초석으로 당시에는 '도깨비의 연석'이라고도 불렸습니다.

平成28年12月 太宰府市教育委員会



- ①は、発掘調査で見つかったL字形の溝の位置です。
- ②は、江戸時代から知られている礎石です。
- ③は、昭和43年、上水道工事で横の市道から発見された礎石で、円形の柱座が造り出されています。
- ④は、平成26年の調査で門跡周辺から見つかった石で、東門の石垣に使われた可能性も考えられます。



礎石と門の構造復元図

礎石上面にある2つの円形の穴は、門柱を据える穴と門扉の軸受けです。方形の穴は扉と門柱との隙間をふさぐ方立を据えます。

発掘調査で、礎石は江戸時代末頃の層の上に乗っていることがわかり、官道の位置に対し、礎石の向きも異なっていたことなどから、古代の位置を保っていないことがわかりました。そこで、平成28年の整備では、礎石の向きだけ本来の向きに据え直されました。

②の江戸時代に「鬼の硯石」と云われた東門の礎石



③の礎石(手前)と④の石(奥)



ここは「東門推定地」





水城東門跡

Ruins of Mizuki Fortress
East Gate

水城東門遺址

미즈키(성)동문 유적

太宰府市

Taizaiji City 太宰府市

千手観音堂がある



このカラー舗装のされているエリアが「古代古道跡」ということのようなだ/左手の道は日田街道というらしい/この先に太宰府跡がある





古代官道跡 (水城東門ルート)

水城には、東西2ヶ所に門があり、官道(現在の国道)が接続していました。官道は、東門からほぼ直線的に造られ、外側は、北西約10kmで古代の港湾施設とみられる博多遺跡群(JR博多駅付近)に至りました。また、東門を入ると南東へ約1.2kmで古代都市大宰府条坊に入り、大宰府政庁へ至りました。奈良・平安時代、この道は、都と大宰府を結ぶ主要道路として、都から赴任した役人など多くの人々が往来しました。なお、東門を入れてまもなく、官道から分岐して、筑前国分寺に至る道も造られました。

発掘調査では、西側の道路側溝が確認されました。溝幅は1.2~1.5mで、大きく削平されており、深さは0.1m程しか残っていませんでした。官道の路面幅は約10mと推定され、対となる東側溝は、日田街道と重複しています。

奈良時代、道路に並木をつくれれば、日陰ができ、旅人の休息所となること、さらに果樹を植えれば、果実は非常時の食料として役立つとして提案されています(天平宝字3(759)年「太政官符」)。また、水城西門ルートの官道側溝からクルミやヤマモモの花粉が検出されていることから、整備では官道沿いにヤマモモを植樹しています。



古代官道復元ライン



官道跡の発掘状況

Ruins of the Ancient Government Road

The ancient government road was approximately 10 meters in width and was built almost linearly from Dazaifu towards Hakata. Many people, such as foreign diplomats and Japanese officials who arrived from the capital, have travelled on this road.

古代官道遺址

古代的官道路宽10米，道路几乎被建造成一直线，从大宰府通往博多的这条官道几乎呈一条直线。外国使节和由都城赴任而来的官吏等多往来于此。

고대 관도 유적

고대 관도는 도로 폭이 약 10m로 다자이후에서 하카타 방면으로 거의 직선으로 만들어져 있었습니다. 외국 사절단이나 도읍지에서 부임한 관리 등 많은 사람들이 왕래한 길입니다.

周辺の史跡案内図

(Guide map, 史蹟圖, 案内圖)



官道は古代以降も利用され、江戸時代に整備された日田街道は、現在も市道として残っています。大宰府の入口であったことから、1901年に京から配流された菅原道真がここから大宰府に入ったと伝えられ、周辺には、その伝説にちなんだ文化遺産が点在しています。

- 水城館(トイレ・休憩所・ガイダンス・万葉歌碑) Mizuki Hall Toilet・Guidance, 廁所・酒台, 非営利・案内所 → 40m
- 水城跡展望台 Observatory, 展望台, 眺望台 ↙ 100m
- 水城跡第2広場(トイレ) Ruins of Mizuki's Second Plaza (Toilet), 水城遺跡第2広場(廁所), 미즈키 유적 제2광장(화장실) ↑ 140m
- 水城跡土塁 Ruins of Mizuki's Mounds 水城遺址土塁(城壕), 미즈키(성) 유적 도랑(제방) ↗ 70m
- 姿見井 Silhouette Water Well 姿見井, 모습울 보는 우물 ← 90m
- 衣掛天満宮 Kinukake Tenman-gu Shrine 衣掛天満宮, 키구카케 덴만구 ← 120m



古代官道復元ライン

そこから西側を見ると西方向に延びる木立に覆われた土塁が見える/こちらに「木樋取水口跡」、「水城瓦窯跡」がある



東側を見ると左手に一段低くなった模擬的に造った土塁(水城跡復元丘陵)が見える/復元丘陵は「水城館」として利用されている



水城館/史跡見学や学習、観光の案内場所として利用されている



水城館の近くに立つ「万葉歌碑」



凡ならば かもかもせむを
恐みと 振りいたき袖を 忍びてあるかも
俊道は 雲隠りたり 然れども
わが振る袖を 無礼と思ふな

娘子 児島

俊道の 吉備の児島を 過ぎて行かば
筑紫の児島 思ほえむかも

ますらをと 思へるわれや

水くきの 水城のうえに なみだ拭はむ

大納言 大伴卿

原文

凡有者 左毛右毛將爲乎 恐跡 振袖袖乎 忍面有香聞
俊道者 雲隠存 雖然 余振袖乎 無礼登母布奈

日本道乃 吉備乃兒嶋乎 過面行者 筑紫乃子嶋 所念香聞
大夫跡 念在吾哉 水草之 水城之上 尔 涙將拭

万葉集卷六 九六五、九六八

天平二年（七三〇）冬十二月、大宰帥大伴旅人は大納言にすすみ大宰府を離れ
た。水城で旅人を見送る官人たちに交じって、日頃旅人と別れ親しんでいた遊
行女婦がいた。名は児島。別れに際して児島は旅人に二首の歌を贈った。

あたり前なら、ああもこうもしましうものを、恐れ多くて、痛いほどに
はげしく振りたい袖も我慢しているのです。

大和への道が雲に隠れ、あなたのお姿はやがて見えなくなるでしょう。そ
れでも私が別れを借しんで振る袖を、無礼だと思いいなりませんように

これに和えて、大伴旅人は返歌した。

大和への道の途中の吉備国の児島を通ったならば、きっと同じ名の筑紫の
児島のことか想われることだろう。

涙などこぼさぬ立派な男子だと思っている私だが、別れに際して水城の迎
りに立ち、涙を試うことであろうか。

これが二人の永久の別れとなった。都に帰った旅人は、翌年七月、六十六歳で
亡くなった。

歌碑は、児島の一首目と旅人の水城を詠みこんだ二首目である。

この解説版は「歴史と文化の垣根脱」で作成しています。

さて、西側にある「木樋取水口跡」、「水城瓦窯跡」を見てみよう



こちらの土塁には小さな神社があった



境界を守り悪霊の侵入を防ぐ塞の神が祀られている/この辺りに外濠への吐水口があったようだ



反対側(内濠側)へ進む



両サイドは「木樋（縦樋）」のレプリカらしい



反対側から見たところ



そこで右手を見ると標柱と説明坂が見える



「史蹟 水城疎水渠乃址」と記されているようだが？



ここが取水口の一つのようだ





特別史跡 水城跡 ひがし もん もく ひ あと

東門木樋跡

所在地 太宰府市国分1丁目221-3、水城1丁目ほか
指定日 大正10年3月3日史跡（木樋取水口）昭和13年12月28日追加指定
昭和28年3月31日特別史跡



木樋について

木樋とは導水のために造られた木製通水管のことで、庭園や溜池など水が必要な施設で用いられます。

この水城跡では、土塁の両側にある内濠と外濠をつなぐために設置されたもので、取水口と吐水口以外は土塁下を通る暗渠になっています。現在、発掘調査によって3ヶ所で確認されていますが、まだ、他にも存在するものと考えられています。このほか大土居水城跡（春日市）でもひとまわり小さい木樋が確認されています。

発掘調査でわかったこと

この東門跡の傍らにある木樋は、1930（昭和5）年、国道3号線（現在の県道112号線）新設に伴って、民家移転予定地の井戸を掘削した際に発見されました。

木樋は大きなヒノキ材を使って造られ、土塁下を通る縦樋とそれに直交する横樋（取水口）とで構成され、全形はT字形をなしています。規模は縦樋が全長79.5m、内法の幅1.2m、高さ0.8mで、幅0.8m前後の蓋板がのせられ、現代の道路側溝のような箱型をしています。横樋は長さ6.67m、幅0.9mで、横樋の両側には直径47cmの円柱が立てられています。底部とわずかに残った側板から、縦樋と同様に箱型をしていたと考えられます。

木樋は取水方法などまだ不明な点が多く、これらの解明が水城全体の構造解明につながるものと考えられます。



東門木樋跡周辺文化財位置図



縦樋の底板
横樋の底板
円柱

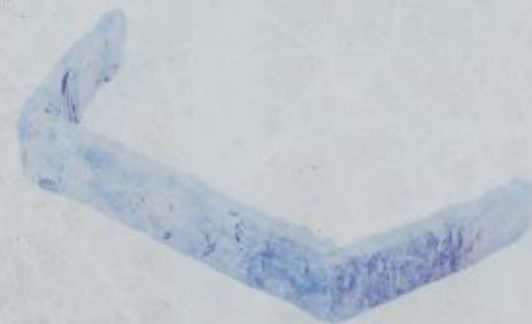
東門木樋取水口（南東から、九州歴史資料館撮影）

本樋保護のために造られた石囲いの中には、横樋の西側半分と縦樋の底板が保存され、東半分は道路の下で確認されています。



東門木樋の縦樋（南東から、九州歴史資料館撮影）

底板は厚さ27cm前後の2枚の大きなヒノキ材を半割で組み合わせ、さらに鉄製の釘によって留められています。

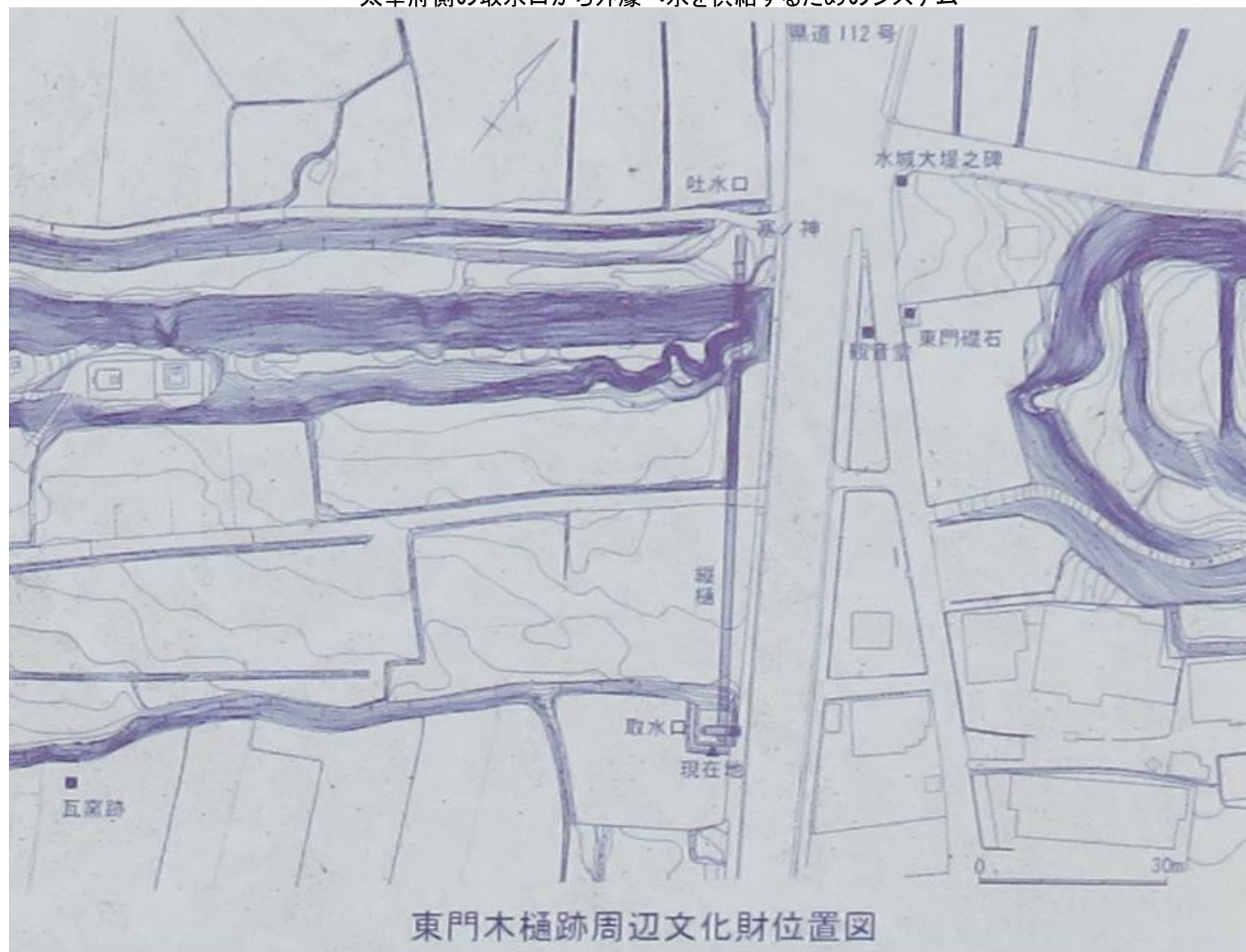


釘（九州歴史資料館所蔵）

縦樋の底板を留めていたもので、上面の長さは25cm、幅5cm、両端の爪の長さは16cmあります。

平成16年3月31日 太宰府市教育委員会

太宰府側の取水口から外濠へ水を供給するためのシステム



東門木樋跡周辺文化財位置図

さて、少し西方向に進むと「水城瓦窯跡」がある



説明板が立っている





みず き かわら がま あと 水城瓦窯跡

現在地：太宰府市国分1丁目

この地下には、瓦を焼いた窯跡が保存されています。

この瓦窯は、昭和61(1986)年に水城跡の一部が崩落したことで発見され、その後平成11(1999)年の発掘調査で、瓦窯が2基あることがわかりました。九州で見つかる窯は、丘陵斜面を利用した登窯のぼりがまが多いのですが、ここで見つかった瓦窯は、床面を平坦にした平窯ひら がまという珍しい構造でした。この窯の操業時期は、焼成部から出土した須恵器から、8世紀中頃と推測されています。

その頃の水城について、『続日本紀』しよくにほんぎには天平神護元(765)年てんぴやうじんごに采女朝臣浄庭うねのあそんきよにわという役人を修理水城専知官しゆりみづきせんちかんに任命した記述があります。この頃、唐(中国)の混乱や新羅(朝鮮半島)との関係悪化に伴い、怡土城いとじょう(糸島市)を築城するなど、北部九州の防備が強化されており、水城も修理されたことがわかります。その時、ここで東門などの建物の瓦を焼いたと考えられます。



水城瓦窯跡全景

瓦窯は、窯口から奥壁まで4.4m、幅は窯口が幅0.4mと最も狭く、焼成部は幅2.1mあります。水城の土壘が築造当時から、大きく削平されていることを考えると、窯は土壘の高まりを利用した造りをしていただと考えられます。



水城瓦窯断面復元模型



窯の焼成部と焼成部

窯の上部は削平されていましたが、焼成部の壁は、瓦と粘土を積み上げて造られていました。焼成部の床面にはロストル構造と呼ばれる溝が作られ、製品となる瓦はこの上に並べられ焼かれます。

また、薪を燃やす燃焼部の壁は、無文埴(レンガ)を積み上げ、表面に粘土を塗って仕上げています。

平成29年 太宰府市教育委員会

Mizuki Tiles Kiln Site

In this basement, there are traces of the kiln used for making tiles to repair Mizuki about 1250 years ago.

水城瓦窯遺迹

在这个地下，有一个瓦窑遗址。约1250年前用于修理水城(MIZUKI)的瓦，是产自这个瓦窑。

미즈키 기와가마 유적

이 지하에는 약 1250년 전 미즈키의 수리에 사용된 기와를 구운 가마유적이 있습니다.

さて、水城跡の全体像を見るために東側の国分丘陵に登ってみよう/城跡のような地形を登って行く





右手は急斜面のため、トラロープが張ってある



霧囲気が出て来た



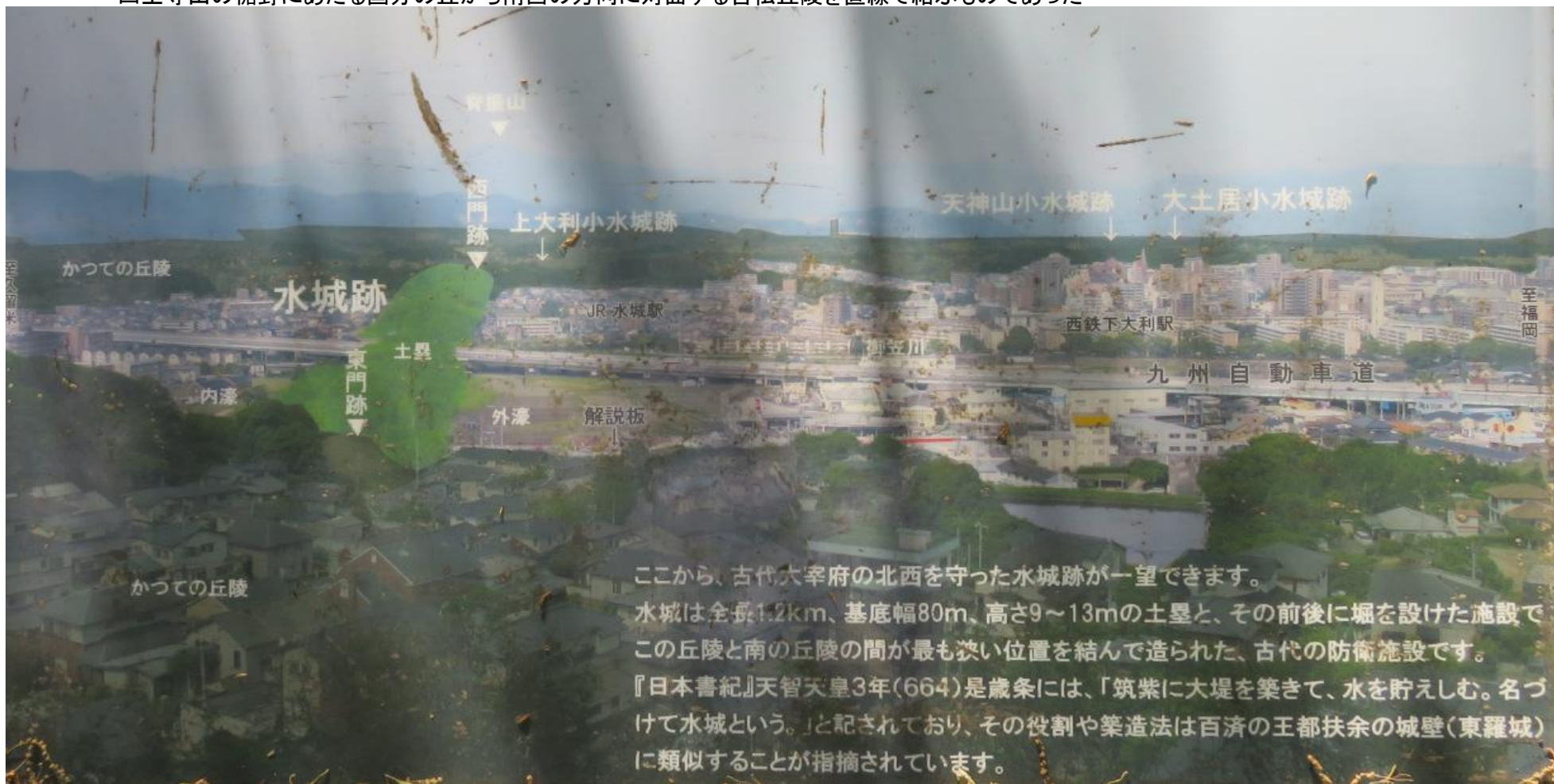
前方に見晴らし台が見える



ここが水城跡展望台



水城は大野城跡に連なる丘陵を次々と結び、博多湾に接する福岡平野への太宰府の開口部を塞ぐために築造されたもので、大野城がある四王寺山の裾野にあたる国分の丘から南西の方向に直面する吉松丘陵を直線で結ぶものであった



国分丘陵の水城跡展望台から見た水城跡/右方向が博多湾、左方向が太宰府



これは「水城館」のあった復元丘陵を見下ろしたところ



参考ホームページ

<http://www.dazaifu.org/map/tanbo/tourismmap/11.html>

<http://www.city.onojo.fukuoka.jp/s077/030/010/030/020/2090.html>

<http://www9.plala.or.jp/kinomuku/dazaifu/mizuki.html>

<https://www.dazaifu-japan-heritage.jp/bunkazai/detail.php?cId=320>

<https://dazaifu-bunka.or.jp/info/spot/detail/3>

<https://www.kotodazaifu.net/mizukikan>

<http://www.geocities.jp/qbpb900/mizuki.html>

<http://www.kyushu-sanpo.jp/kanko/fukuoka/mizuki/mizuki.html>

